

落雷事故防止へ避雷針

昨年サッカー場で発生 鵬翔高

4基、マイナス電荷で抑制

宮崎産業経営大と鵬翔中・高を運営する大淀学園（大村昌弘理事長）は、昨年4月に同高サッカーグラウンドで発生した落雷事故を受け、グラウンドや隣接する野球場に避雷針を設置した。関係者は「雷対策を強化し、事故再発防止に努めたい」としている。

生。同高サッカーグラウンドを訪れていた熊本県立鹿本高サッカー部の生徒18人

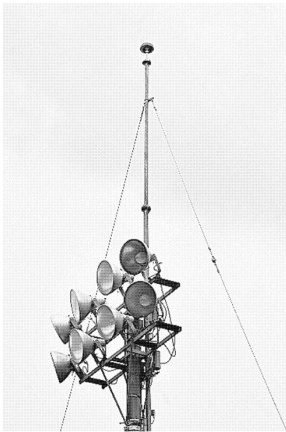
が、落雷により病院に搬送された。同県教委によると、このうち1人は現在も意識が完全には回復していないという。同県が設置した調査委員会は今年5月に報告書をまとめ、事故原因について「監督が落雷の予報を確認せず部活を継続した」などと指摘した。

★「プレみや」にも掲載
（武龍大郎）

4基を購入し、今月上旬までにグラウンドの照明灯や電柱の先端に設置した。落雷を誘導する従来の避雷針とは異なり、マイナス電荷を帯びさせることで周囲への落雷を抑制する仕組みになっている。地上から高さ20メートルに設置し、半径約100メートルの範囲をカバーできるという。

グラウンドや野球場、隣接するテニスコートは対外試合で県内外のチームが利用する機会も多い。大村理事長は「落雷の予測判断は難しく、現場だけの責任にするわけにはいかない。万が一の事態に備え、生徒や学生が安心して競技に打ち込める環境を整える責任がある」と話している。

事故は昨年4月3日に発



大淀学園がサッカーグラウンドや野球場に設置した避雷針。照明灯の先端に取り付けられている＝宮崎市・宮崎産経大

※ 転載不可